

原 著

中学生男子の瘦身理想の内面化と 身体不満足感, 瘦身行動との関連

中島佳緒里¹ 山宮 裕子² 島井 哲志¹

要旨

本研究の目的は、中学生男子 405 名を対象に、メディアメッセージにおける瘦身理想の内面化と身体不満足感、ならびに瘦身行動の関連を検討することである。メディアメッセージをどれだけ内面化しているかを評価するために Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 日本語短縮版 (SATAQ-3JS) を使用した。身体不満足感については体型不満スクリーニング用尺度 (EDI-BD(S)) を、他人との体型比較には Body Comparison Scale (BCS) 日本語版を用いた。その結果、SATAQ-3JS の下位尺度である「プレッシャー」「内面化・一般」「内面化・アスリート」「情報の重要性」と BCS については、学年による有意差が認められた ($p < .05$)。EDI-BD(S) と各変数の相関は、SATAQ-3JS の「内面化・一般」「内面化・アスリート」「情報の重要性」の項目で弱い負の相関関係が認められた ($p < .05$)。また、ダイエット志向の生徒とそうでない生徒で比較したところ、「内面化・アスリート」以外の項目において、ダイエット志向の生徒が有意に高い得点であった ($p < .01$)。これらのことは、中学生男子は学年が高くなるとメディアの影響を強く受けて、男子特有の筋肉質の理想体型を内面化するだけでなく、瘦身理想も強くなることを示した。また、瘦身行動を希望する者は、男子においてもメディアによって形成された瘦身理想の内面化が強く、一部の男子では中学生の時期にボディイメージの歪みから食の問題行動が生じていることが示唆された。

キーワード 瘦身理想 身体不満足感 瘦身行動 内面化 メディア

I. はじめに

昨今のダイエット賞賛の社会的風潮の中で我々は、痩せていることが魅力や成功の証であるといったメディアからのメッセージを多く受けている。このような瘦身に関するメディアからのメッセージに暴露されることで、偏ったボディイメージや食嗜好を持ち、過度なやせに至る不健康な食行動を引き起こす可能性が危惧される。しかしながら、メディアに暴露されたすべての人が摂食障害の傾向を生じるわけではない。山宮・島井 (2012) は、メディアが発する痩せ型の体型や瘦身メッセージを自己の理想として内面化し、他者と自分の容姿を比較する傾

向にある女性が、メディアからの影響を受けやすく、その結果強い痩せ願望や身体不満足感をもち、ダイエット行動や摂食問題行動に移る傾向にあることを報告している。さらに、瘦身を賞賛する傾向が男性の中でも強くなっており、Harter (2006) は男性の瘦身願望が近い将来大きな問題になると指摘している。近年の大学生男子を対象にした調査では、BMI が平均以下 (≤ 22) である大学生男子の約 40% が瘦身願望を持っているとの報告 (高橋・川端・山田・宮下・大浦・山田 2004) や、男子大学生の約 54% が肥満恐怖を持っており、22% 程度は「常に痩せることを考えている」と回答した結果があり (早野 2002)、瘦身願望が男性社会にも生じている現状が窺える。

ボディイメージや瘦身研究の多くは女性を対象にしているが、メディアからの瘦身情報や瘦身によるメリット

¹ 日本赤十字豊田看護大学

² テンプル大学日本校

の情報は、男女ともに「瘦身理想の内面化」への直接の関連性が見出されており、身体意識に関する性差が薄れてきている可能性が示唆されている（浦上・小島・沢宮 2013）。メディアでは男性においても痩せていることが賞賛され、「細マッチョ」で表現される細身の容姿が理想的なイメージとなってきている（佐藤・土屋 2010）。つまり、メディアによって社会的に理想とされる瘦身を自己の価値観とする内面化が、実際に女性だけの問題でなくなってきたということである。

さらに、女性では痩せ願望が低年齢化していることが指摘されているが、小学生・中学生の男子においても標準体型あるいはやせ気味の体型であるにもかかわらず約 3 割が痩せたいと希望し、瘦身理想が低年齢化していることが明らかになっている（池田 2007）。しかし、中学生男子を対象にした瘦身研究は極めて少なく、どのようにメディアの瘦身イメージを内面化しているのかは十分に検討されていない。中学生は思春期にあたり、第二次性徴により自己の身体を強く意識すると同時に、急速に身体への関心が高まる時期である。そのため、自分の容貌や体型を過度に気にする、自己像を他者と比較し劣等感を持つ、理想の自己と現実の自己との隔たりに悩む、あるいは他者と同一視する傾向が強い。つまり、中学生はメディアの発する瘦身イメージを無批判に自分自身の理想として取り込み、内面化しやすい時期といえるだろう。

以上のことを踏まえ、本研究は中学生男子を対象にメディアメッセージにおける瘦身理想の内面化と身体不満足感、ならびに瘦身行動の実態を捉えることを目的とした。

II. 研究方法

1. 研究参加者

対象は、公立中学校 1 校に在籍する男子中学生 405 名である。調査目的に同意し研究に参加した 399 名のうち、回答に不備のあった者を除く 397 名に関して分析を行った（有効回答率 98.0%）。内訳は、1 年生 148 名、2 年生 136 名、3 年生 113 名である。

2. 手続き

調査の実施は、原則としてクラスの担任に依頼した。調査実施方法の統一を図るために、調査実施手引書を

い、指示内容以外の説明を行わないよう求めた。調査は自記式の無記名調査とし、記入後はあらかじめ各人に配布した封筒に記入済みの調査票を入れ封をさせた。さらに、調査中は机間巡回をしないように調査実施者に求めた。

3. 調査内容

1) 基本属性

学年、年齢、身長、体重は、同年 4 月の健康診断時の情報を使用した。身長と体重から BMI (Body Mass Index=weight(kg)/high(m)²) を算出した。なお、健康診断時の情報と質問紙は該当する中学校でマッチングが行われ、匿名化されたデータを使用した。

2) Eating Disorder Inventory-Body Dissatisfaction (S) (EDI-BD(S))

身体不満足度を、山宮・島井 (2011) が作成した体型不満のスクリーニング用尺度 EDI-BD(S) を用いて測定した。この尺度は、Garner による EDI-2 (Eating Disorder Inventory-2) 尺度から身体不満足に関する 5 項目を選択し、短縮版の尺度にしたものである (山宮・島井 2011)。5 項目の因子構造はオリジナルと同じ 1 因子構造をとっており、クロンバック α 係数は .84 と信頼性が確認されている。

各項目は、「全然ない (1 点)」から「いつも (6 点)」までの 6 件法で回答を求め、合計点が高いほど身体不満足度が強いことを表している。

3) Body Comparison Scale (BCS) 日本語版

BCS は、南フロリダ大学 Thompson 研究室で開発された尺度で、自分の様々な身体の部位について、他人のそれとどのくらい頻繁に比較するのかを直接たずねるものである (Fisher, Thompson & Dunn 2002)。本研究では、体重・体型の下位尺度のうちメディアでクローズアップされる顔、上腕、ウエスト、腹部、臀部、下腿、上半身の形、下半身の形の 20 部位を使用した。回答は「一度もない (1 点)」から「いつも (5 点)」までの 5 件法で、合計点数を算出した。合計点が高いほど他人と比較する頻度が高いことを示す。クロンバック α 係数は .96 と高い信頼性が報告されている (山宮・島井 2011)。

4) Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 日本語短縮版 (SATAQ-3JS)

体型理想の内面化においては、メディア情報の影響を

測定するために Thompson の開発した Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 (SATAQ-3) の短縮版を使用した。SATAQ-3JS は 12 項目からなる質問紙で、「プレッシャー」「情報の重要性」「内面化・一般」「内面化・アスリート」の 4 つの下位尺度で構成されている。それぞれ 3 項目について、「全く同意しない (1 点)」から「かなり同意する (5 点)」までの 5 件法で回答を求め、各下位尺度の合計点数が高いほどメディアからの影響を強く受けていることを表す。それぞれのクロンバック α 係数は、順に .90、.88、.82、.79 であり、高い内的一貫性が示されている (山宮・島井 2012)。

下位項目である「プレッシャー」は、メディアに接してダイエットしなければならないという心理的圧力を感じている程度を表している。「情報の重要性」は、メディア情報が外見的な魅力の情報源として重要と考えている程度を示している。「内面化」とは、一般に社会から示された規範や役割、価値観を、自分自身の規範や役割、価値観として受け入れるという社会的影響のプロセスを示す。この尺度では、体型に関わる内面化として、痩せているのが望ましいという瘦身理想の内面化 (内面化・一般) と、筋肉質なアスリート体型であるべきだという規範の内面化 (内面化・アスリート) の 2 つを測定している。

5) 周囲からの瘦身に対するプレッシャー

瘦身についてはメディアだけでなく、身近な人々からの影響をうけることから、友人および家族のダイエット志向について、6 項目の質問を作成した。質問は、友人および家族において、ダイエット経験者か否か、瘦身願望の程度、容姿の重要性の 3 項目を、それぞれ「かなり同意する (5 点)」から「まったく同意しない (1 点)」の 5 件法で回答を求めた。

4. 分析方法

まず、それぞれの尺度について、男子生徒全員の得点を求めた後、学年別の平均値を算出した。次に、各変数の関係性を Spearman の相関係数によって求めた。さらに、ダイエット志向によって 2 群に分け、EDI-BD(S)、BCS と SATAQ-3JS の値を比較し、ダイエット志向のある生徒の特徴をつかんだ。統計学的な解析には、統計ソフト SPSS 19.0 を使用し、一元配置分散分析を用いて、有意水準 5% 未満にて有意差を確認した。分析結果は、平均値 (標準偏差: SD) で表した。

5. 倫理的配慮

調査に関しては、都道府県の教育委員会ならびに学校長へ調査依頼文書を送付し、事前に了解を得た。生徒に関しては、調査内容が個人を特定しないこと、個人の回答を教員や他の人が見ることなどはしないこと、答えたくない質問には答えなくても良いことなど、いかなる学業上の不利益を生じないことを書面で説明した。本研究は、該当施設の研究倫理審査委員会の承認を得て行われた。

III. 研究結果

1. 参加者の概要

参加者の身体計測の結果を表 1 に示した。学年が上がるごとに身長や体重が増加し、BMI が高くなっていった。

2. EDI-BD(S)・BCS

EDI-BD(S) と BCS の学年別平均得点を表 2 に示した。EDI-BD(S) 得点は、1 年生 22.7 点 ($SD=5.85$)、2 年生 22.5 点 ($SD=6.00$)、3 年生 21.8 点 ($SD=6.46$) と推移し、学年による身体不満足感の違いは見られなかった。しかし、BCS 得点は、1 年生 12.5 点 ($SD=10.70$)、

表 1 参加者の概要

学年	3学年全体		学年					
			1年生 (n=148)		2年生 (n=136)		3年生 (n=113)	
	平均値(SD)	range	平均値(SD)	range	平均値(SD)	range	平均値(SD)	range
身長(cm)	158.1 (9.4)	133-183	151.8 (7.9)	133-173	159.0 (8.0)	142-183	165.0 (7.3)	142-183
体重(Kg)	47.3 (10.4)	27-84	43.1 (10.1)	27-80	46.8 (8.7)	28-82	53.2(10.0)	30-84
BMI(Kg/m ²)	18.7 (2.8)	14-32	18.5 (3.2)	14.2-32.3	18.4 (2.4)	13.9-28.5	19.4 (2.7)	14.1-27.0

2 年生 11.0 点 ($SD=12.78$)、3 年生 16.4 点 ($SD=14.26$) とばらつきが大きいものの有意差が認められた ($F(2,401) = 6.11, p < .001$)。多重比較の結果、1 年生および 2 年生と 3 年生の間に有意差がみられた ($p < .05$)。

3. SATAQ-3JS

SATAQ-3JS の学年別平均得点を表 2 に示す。メディアの情報の影響では、SATAQ-3JS の下位尺度の「プレッシャー ($F(2,401) = 5.26, p < .01$)」「内面化・一般 ($F(2,401) = 14.90, p < .001$)」「内面化・アスリート ($F(2,401) = 3.27, p < .05$)」「情報の重要性 ($F(2,401) = 7.04, p < .01$)」の 4 項目すべてにおいて学年に有意差が認められた。多重比較の結果、「プレッシャー」と「情報の重要性」では、1 年生あるいは 2 年生と比較して 3 年生で得点が有意に高かった ($p < .05$)。また、「内面化・一般」では 1 年生、2 年生、3 年生の間すべてに有意差が認められ、1 年生、2 年生、3 年生の順に得点が高くなった ($p < .05$)。また、「内面化アスリート」では、2 年生と 3 年生の間のみ、有意に得点が高くなった ($p < .05$)。

4. 周囲からのプレッシャー

周囲からのプレッシャーについての得点を表 2 に示した。友人からのプレッシャー得点は、1 年生 6.7 点 ($SD=3.0$)、2 年生 6.5 点 ($SD=3.0$)、3 年生 7.0 点 ($SD=2.9$) と推移したが、有意な差が認められなかった。同じく、家族からのプレッシャー得点においても 1 年生 7.8 点 ($SD=3.4$)、2 年生 7.5 点 ($SD=3.5$)、3 年生 7.9 点 ($SD=3.3$) と推移したが、有意な差は認められなかった。

5. SATAQ-3JS と EDI-BD(S)、各変数の相関関係

BMI、EDI-BD(S)、BCS と各変数の相関係数を表 3 に示した。BMI は、SATAQ-3JS の「プレッシャー」と有意な正の相関関係にあった ($r=.38$)。EDI-BD(S) と弱い負の相関関係が認められたのは、SATAQ-3JS の下位尺度である「内面化・一般 ($r=-.21$)」「内面化・アスリート ($r=-.15$)」「情報の重要性 ($r=-.16$)」であった。また、BCS と SATAQ-3JS はすべての下位尺度で有意な正の相関関係にあった。

表 2 学年別 EDI-BD(S) と BCS, SATAQ-3JS 得点

測定尺度	学年	3 学年全体 平均値(SD)	学年			F 値
			1 年生 (n=150) 平均値(SD)	2 年生 (n=138) 平均値(SD)	3 年生 (n=116) 平均値(SD)	
EDI-BD(S)		22.4 (6.1)	22.7 (5.9)	22.5 (6.0)	21.8 (6.5)	n.s.
BCS		13.1 (12.7)	12.5 (10.7)	11.0 (12.9)	16.4 (14.3)	6.11 **
SATAQ-3JS	プレッシャー	4.5 (2.7)	4.4 (2.5)	4.1 (2.3)	5.2 (3.3)	5.26 **
	内面化・一般	5.7 (3.1)	4.9 (2.4)	5.8 (3.0)	6.8 (3.5)	14.90 **
	内面化・アスリート	7.8 (3.5)	7.8 (3.4)	7.3 (3.6)	8.5 (3.5)	3.27 *
	情報の重要性	6.4 (3.4)	6.2 (3.1)	5.9 (3.2)	7.4 (3.6)	7.04 **
プレッシャー	友人	6.7 (3.0)	6.7 (3.0)	6.5 (3.0)	7.0 (2.9)	n.s.
	家族	7.7 (3.4)	7.8 (3.4)	7.5 (3.5)	7.9 (3.3)	n.s.

* $p < .05$, ** $p < .01$

表 3 SATAQ-3JS と各変数の相関係数

	EDI-BD(S)	BCS	SATAQ-3JS			
			プレッシャー	内面化・一般	内面化・アスリート	情報の重要性
BMI	.03	.08	.38**	.09	.05	.02
EDI-BD(S)	—	-.09	.09	-.12*	-.15**	-.16**
BCS	—	—	.23**	.45**	.35**	.42**

* $p < .05$, ** $p < .01$

6. ダイエット志向をもつ生徒の傾向

ダイエット志向をもつ生徒の割合を図1に示す。この項目で回答の得られた男子生徒 387 名のうち「指導を受けた」1名(0.2%)、「痩せたいと思って実行した」41名(10.6%)、「したいと思ったがまだ実行していない」56名(14.5%)と、男子生徒全体の 25.1% がダイエットを望んでいた。1・2年生と比較して3年生ではダイエット経験者、あるいはダイエットの希望者が増加した。

この 98 名から指導を受けてダイエットを実行している 1 名を除いた 97 名と、ダイエット志向のない 300 名の 2 群に分け、EDI-BD(S) と BCS、SATAQ-3JS の得点を比較した。結果を表4に示す。ダイエット志向がある男子生徒の BMI は 21.3kg/m² (SD=3.2) であり、ダイエット志向のない生徒 17.9kg/m² (SD=2.2) と比較して、有意に高かった (F (1,387) =131.53, p<.001)。また、EDI-BD(S) と BCS においても、ダイエット志向がある男子生徒で有意に得点が高かった (それぞれ F (1,394) =13.72, F (1,395) =18.12, いずれも p<.001)。

SATAQ-3JS の下位尺度うち、「プレッシャー」「内面化・一般」「情報の重要性」については、ダイエット志向がある男子生徒で高い結果であったが (それぞれ F (1,395) =169.3, F (1,395) =29.57, いずれも p<.001, F (1,395) =6.98, p<.01)、「内面化・アスリート」項目では有意差は認められなかった。さらに、周囲からのプレッシャー得点もダイエット志向の有無による有意差は

なかった。

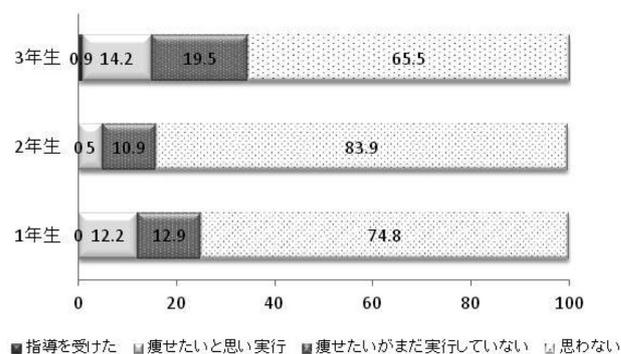


図1 ダイエット志向の有無
グラフ内の数字は、学年全体に対する割合 (パーセント) を示す

IV. 考察

1. 中学生男子の身体理想の内面化と身体不満足感の特徴

本研究で使用した SATAQ-3JS は、主にメディアから美と痩身に関する情報をどのくらい得るのか、メディアから「痩せなければならない」というプレッシャーをどのくらい感じるのか、そしてメディアに映し出されるモデルのイメージを理想としてどのくらい内面化しているのかが測定される (山宮・島井 2012)。中学生男子の傾

表4 ダイエットの志向の有無による EDI-BD(S), BCS, SATAQ-3JS

ダイエット志向の有無	BMI		EDI-BD(S)	BCS	プレッシャー	
	平均値(SD)	range	平均値(SD)	平均値(SD)	友人	家族
	平均値(SD)	range	平均値(SD)	平均値(SD)	平均値(SD)	平均値(SD)
無 ^a	17.9 (2.2)	13.9-27.1	21.7 (6.4)	11.6 (12.0)	6.5 (3.2)	7.6 (3.5)
有 ^b	21.3 (3.2)	14.0-32.3	24.3 (4.3)	17.8 (13.5)	7.2 (2.9)	8.1 (3.2)

表4 (つづき)

ダイエット志向の有無	SATAQ-3JS			
	プレッシャー	内面化一般	内面化アスリート	情報の重要性
	平均値(SD)	平均値(SD)	平均値(SD)	平均値(SD)
無	3.7 (1.7)	5.3 (2.8)	7.8 (3.6)	6.2 (3.3)
有	7.2 (3.5)	7.2 (3.5)	8.0 (3.3)	7.3 (3.5)

^an=300, ^bn=97
*p<.05, **p<.01

向は、学年を問わず筋肉質のアスリート体型を理想としており、身長や体重、プロポーション、肩幅など体格に関連した領域により自分自身の魅力を判断する大学生の結果（田中 2013）と同様の傾向を示した。このことは、男子の理想体型がスポーツ選手のような筋肉質で均整のとれた体型であり、発達段階による差はなく、普遍的な理想体型となっていることを示している。また、メディアからの痩身の理想化、プレッシャーや情報の重要性は3年生で最も高い結果を得た。思春期中期は、発達段階的に自分が人にもどのように見えるのかということに意識が集中する自己中心的で自意識過剰な時期である。そのため、中学生は自己に対する評価に敏感であり、3年生になると低学年と比較して、他者との容姿の比較行動の増加と共に、メディアからの身体的外見におけるイメージを内面化する傾向にあることが示唆された。

一方、EDI-BD(S)で測定した身体満足感と関連を示したのは、BCSが示す他者との比較、SATAQ-3JSの痩身理想とアスリート体型の理想、情報の重要性の4項目であった。いずれも負の弱い相関関係であり、0.5程度の相関係数が確認された女子とは異なるものであった（斎藤 2004）。メディアの影響と青年の身体不満足感について検討したCusumano & Thompson（1997）や上長（2007）の報告においても、男子ではメディア情報と身体不満足感の間に関連は認められず、本研究の結果はこれを支持した。すなわち、中学生男子では、身体不満足感の高さが要因となって、メディアからの情報を内面化する傾向は少ないといえる。このように身体不満足感とメディアからの影響が女子と異なるのは、第二次性徴をむかえる中学生の身体的成熟の体験に性差が影響していることが考えられる。男子では思春期の身体発育によって変化する体型は、筋肉質な体型への理想的な変化であるため、この年齢の男子は身体像に対する不満足感が低いと推察された。

また、BCSとSATAQ-3JSの関連は女子ほど高くない（山宮・島井 2012）ものの、有意な正の相関関係が認められた。この結果は、メディアの提示する身体理想を内面化した男子は、女子と同様に他者との容姿の比較を通して自己の容姿の評価を頻回に行っていることを示している。様々な方法で繰り返し自己の身体の様子を確認するボディチェック行動は、自己の外見的な欠点や完璧でない側面に注意が向き、容姿への囚われを助長することが指摘されている（安保 2012）。従って、メ

ディアの影響を強く受け痩身理想を内面化した男子は、現段階では身体不満足感との関連が小さい集団であったが、年齢が高じるに従って容姿や外見への囚われが強化され、浦上ら（2013）が報告した自尊感情が低く、身体不満足感が高い集団に移行する可能性があるだろう。

2. ダイエット志向をもつ中学生男子の特徴

ダイエット志向を持つ男子は、EDI-BD(S)、BCS、SATAQ-3JSの「プレッシャー」「情報の重要性」「内面化・一般」が、ダイエット志向をもたない生徒に比べて高かった。Ricciardelli, McCabe, & Banfield（2000）は、思春期男子の身体に関する社会文化的プレッシャーの調査から、男子においてはメディアによるプレッシャーの影響がないことを報告している。しかし、本研究の結果からは、ダイエット志向を持つ男子では、家族や友人からの痩身へのプレッシャーは少ないが、メディアからの痩身情報の影響を強く受けていることが明らかになった。特に、アスリート体型の身体理想ではダイエット志向の有無で差がなかったことから、男子においても「内面化・一般」で示される痩身理想を持ち、メディアの情報からプレッシャーを感じている者が、より痩身願望を抱きやすいことが示された。さらに、ダイエット志向をもつ者の中には、BMIが低い生徒も含まれており、男子においても標準あるいは痩せていても、より痩せたいと思う歪んだボディイメージをもつ者が存在した。このように、従来から男子の理想である筋肉質の体型だけでなく、男女ともに痩せることを理想とする信念は、中学生の時期にすでに形成されていると推察された。欧米では、思春期の生徒を対象に、メディアが提供する痩身を理想とする情報を認識、解釈、批判することを通して、メディアの内容の批判的評価を受け入れることを強化するメディアリテラシーに関する教育が行われている（Levien, Piran, & Stoddard, 1999）。本研究からもメディアからの痩身理想は、学年が高じるとより内面化しやすい傾向にあるため、早い時期にメディアからの情報を批判的に考えられるようメディアリテラシー教育をすることの必要性も考えられた。

V. 結論

本研究は、中学生男子におけるメディアメッセージによる痩身理想の内面化と身体不満足感、ならびに痩身行

動の関連を検討することを目的に実施した。その結果、SATAQ-3JS の下位尺度である「プレッシャー」「内面化・一般」「内面化・アスリート」「情報の重要性」とBCSについては、学年による有意差が認められた ($p<.05$)。EDI-BD(S)と各変数の相関は、SATAQ-3JS の「内面化・一般」「内面化・アスリート」「情報の重要性」の項目で弱い負の相関関係が認められた ($p<.05$)。また、ダイエット志向の生徒とそうでない生徒を比較したところ、「内面化・アスリート」以外の項目において、ダイエット志向の生徒が有意に高い得点であった ($p<.01$)。以上の結果は、中学生男子では学年が高くなるとメディアの影響を強く受け、男子特有の筋肉質の理想体型を内面化するだけでなく、瘦身理想も強くなることを示した。ダイエットを志向する生徒の中には、体型に関わらずメディアによって形成された瘦身理想の内面化が強いものもあり、この時期におけるメディアリテラシーの必要性が示唆された。

謝辞

本研究にご協力いただいた対象者と保護者の皆様、ならびに中学校の先生方に心より感謝する。なお、本研究は、部分的に第三著者の学術振興会科学研究費基盤研究(C)「健康な食を育成するためのメディアリテラシー教育の基礎研究」によって助成された。

文献

安恵理子, 須賀千奈, 根建金男 (2012). 外見スキーマを測定する尺度の開発および外見スキーマとボディチェック認知の関連性の検討. *パーソナリティ研究*, 20, 155-166.

Cusumano D.L.& Thompson J. (1997). Body image and body shape ideals in magazines. Exposure awareness and internalization. *Sex Roles*, 37,701-721.

Fisher E., Thompson J. K., & Dunn M. E. (2002). Body image and body comparison processes. A multidimensional scaling analysis. *Journal Social Clinical Psychological*, 21, 566-579.

Harter S. (2006). The self. In W. Damon, R. M. Lerner, & N. Eisenberg, *Handbook of child psychology*. Vol. 3 (6th ed.). Social, emotional, and personality development, pp.505-570. Hoboken, NJ, Wiley.

早野洋美 (2002). 男子大学生の摂食障害傾向に関する心

理学的研究. *心理臨床学研究*, 20, 44-51.

- 池田かよ子 (2007). 思春期男子のやせ志向と自尊感情および体型との関連. *新潟青陵大学紀要*, 7, 63-71.
- 上長然 (2007). 思春期の身体満足度と生物社会文化的要因との関連: 身体発育タイミングと身体に関する社会文化的プレッシャーの観点から. *神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要*, 1, 7-15.
- Levine, M. P., Piran, N., & Stoddard, C. (1999). Mission more probable: Media literacy, activism, and advocacy as primary prevention. In N.Piran, M. P. Levine, & C. Steiner-Adair (Eds.), *Preventing eating disorders: A handbook of interventions and special challenges*, pp1-15, PP. 1-25, Philadelphia, PA: Bunner/Mazel.
- 日本学校保健学会 (2010). *メディアリテラシーと子供の健康調査委員会報告書*. 62-73.
- Ricciardelli L. A., McCabe M. P., & Banfield S. (2000). Body image and body change methods in adolescent boys. Role of parents, friends, and the media. *Journal of Psychosomatic Research*, 49, 189-197.
- 斉藤千鶴 (2004). 摂食障害傾向における個人的・社会文化的影響の検討. *パーソナリティ研究*, 13, 79-90.
- 佐藤由佳利, 土谷聡子 (2010). 高校生の摂食障害傾向—その性差について—. *心身医学*, 50, 321-326.
- 高橋英子, 川端朋枝, 山田正二, 宮下洋子, 大浦麻絵, 山田恵子 (2004). 男子学生 (高校生, 専門学校生, 大学生) の痩せ願望の有無による体型評価と体型誤認. *札幌医科大学健康医療学部紀要*, 7, 23-29.
- 田中ひかる, 佐川和則 (2013). 大学生における運動習慣とボディイメージ (体型の主観的評価) の関係について. *近畿大学教養・外国語教育センター紀要*, 3, 11-18.
- 浦上涼子, 小島弥生, 沢宮容子 (2013). 男女青年における瘦身理想の内面化と瘦身願望との関連についての検討. *教育心理学研究*, 61, 146-157.
- 浦上涼子, 小島弥生, 沢宮容子, 坂野雄二 (2009). 男子青年における瘦身願望についての研究. *教育心理学研究*, 57, 263-273.
- 山宮裕子, 島井哲志 (2012). 日本版 Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 短縮版 (SATAQ-3JS) の開発と信頼性・妥当性の検討. *心身医学会*, 52, 54-63.

山宮裕子, 島井哲志 (2011). 体型不満のスクリーニング
用尺度 (EDI-BD(S)) の信頼性と妥当性. 日本赤十
字豊田看護大学紀要, 6, 39-45.

Correlation of Thin-ideal Internalization with Body Dissatisfaction and Dieting Behavior in Junior High-School Boys

NAKAJIMA Kaori¹, YAMAMIYA Yuko², SHIMAI Satoshi¹

¹Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

²Temple University Japan

Abstract

This study examined the correlation of thin-ideal internalization in media messages with body dissatisfaction and dieting behavior in 405 junior high-school boys. The Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 Japanese Short Version (SATAQ-3JS) was used to measure the degree by which media messages are internalized in subjects. Body dissatisfaction was screened using the Eating Disorder Inventory-Body Dissatisfaction (EDI-BD) and body shape comparison with others was assessed by the Body Comparison Scale (BCS) Japanese Version. The results showed significant differences by school year in BCS and the subscales of SATAQ-3JS, i.e. Pressure, Internalization-General, Internalization-Athlete, and Information ($P<.05$). There were weak, negative correlations in each variable between EDI-BD and SATAQ-3JS items including Internalization-General, Internalization-Athlete, and Information ($P<.05$). Comparing diet-oriented students with those not oriented, scores were significantly higher for diet-oriented students in all items except Internalization-Athlete ($P<.01$). These findings suggested that junior high-school boys internalized muscular body shape as an ideal specific to boys by the influence of media as they become senior and simultaneously strengthened their thin-ideal. Those who preferred dieting behavior were more likely to internalize thin-ideal produced by media even in boys. It was also suggested that some boys started to have problems in eating habits due to distorted body image in the junior high school period.

